

## 令和3年度沖縄県総合教育会議 議事録

### 1 日時

令和4年2月15日（火）15:00～16:00

### 2 場所

県庁6階第2特別会議室

### 3 出席者

玉城デニー知事、教育委員会（金城弘昌教育長、上原勝晴委員、山里清委員、藏根美智子委員、小濱守安委員、比嘉佳代委員）

### 4 会議の概要

#### (1) 開会

事務局から、知事並びに教育委員会の教育長及び出席予定の全委員が出席していることが確認された。

#### (2) あいさつ

（玉城知事）

はいさい、ぐすーよー、ちゅーうがなびら。

本日は、大変お忙しいところ、令和3年度沖縄県総合教育会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

教育委員並びに教育委員会の皆様には、日頃より教育施策の推進にご尽力いただき感謝申し上げます。

本日は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、福祉や地域振興などの一般行政と教育行政が連携し、教育施策を総合的に推進していくため、「沖縄県総合教育会議」を開催いたします。

沖縄県の最重要課題の一つである「子どもの貧困対策」については、これまでの施策の効果や子どもを巡る社会状況を踏まえるとともに、新たな課題である「ヤングケアラーへの支援」を重点施策として追加するなど、より実効性のある計画とするため見直し、去る2月2日に「新たな子どもの貧困対策計画（素案）」を決定したところです。

また、「沖縄県子どもの貧困対策推進基金」の設置期間を10年延長するとともに、一般財源で57億円積み増して60億円に倍増することとし、本日開会の2月定例会において、基金条例改正と予算の議案を提案いたしました。

これから子どもの貧困対策やヤングケアラー支援について協議いたしますが、今後の

施策の参考とするため、教育委員の皆様には率直なご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ゆたさるぐとう、うにげーさびら。

(司会)

ありがとうございました。次に金城教育長からご挨拶をお願いいたします。

(金城教育長)

みなさまこんにちは、教育長の金城でございます。

まず初めに知事におかれましては教育委員会の取り組みに対し、日頃から格別のご理解とご協力を頂き感謝を申し上げます。

今年も昨年に続き新型コロナウイルス感染症拡大により学校現場では臨時休校や分散登校などの対応に迫られるなど、その影響は多岐にわたっております。

教育委員会としましてはオンラインなどによる学びの保証に取り組むとともに、子どもたちの心のケアなど学校支援対策の実施に努めているところであります。

ご案内のとおり、総合教育会議は教育行政をあくまで我々教育委員会が地方公共団体の長である知事と課題を共有し、その対応と方向性について共通認識を持つことができる大変重要な機会であるというふうに考えております。

本日協議にあります「新たな子どもの貧困対策計画（素案）」において、学校は地域にひらかれたプラットフォームと位置づけられ、困難な状況にある子どもたちを早期に発見して福祉的支援や経済的支援に繋げるよう、関係機関等と連携し取り組むこととしております。

コロナ渦により、厳しい状況で生活する子どもたちの増加が懸念されております。教育委員会としましては子ども生活福祉部をはじめ、知事部局との連携を一層強化し、対策に取り組んで参りたいと考えています。

知事におかれましては、今後とも格別の理解とご協力をお願いいたします。

本日はよろしくお願い申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。続きまして、各教育委員から一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

(上原委員)

上原勝晴と申します。現在教育長職務代理者を務めさせて頂いております。元小中学校の校長、教育行政に意見をした経験等を生かして、意見を述べさせて頂きたいと思ひ

ます。

よろしく願いいたします。

(藏根委員)

藏根美智子と申します。よろしく願いいたします。私は18歳から90歳までの幅広い放送大学で仕事をしております。課長指導主事、教育行政9年、小学校の校長を6年、それから小学校教員として公立小学校を3校、附属小学校にいました。その視点で今日はお話しをさせていただきます。

よろしく願いいたします。

(比嘉委員)

比嘉佳代でございます。今年の1月から教育委員を務めさせて頂いております。私は保護者の立場から様々な意見を述べさせて頂きたいと思っております。

どうぞよろしく願います。

(山里委員)

教育委員の山里でございます。私は民間の企業で社員教育とか人材育成について色々アドバイスをしております。その様な視点から今日は意見を述べさせて頂ければと思っております。

よろしく願いいたします。

(小濱委員)

小濱守安でございます。医師として、専門的な分野から意見を述べさせて頂きたいと思っております。

よろしく願いいたします。

### (3) 協議事項

#### 新たな子どもの貧困対策計画（素案）について

説明：子ども生活福祉部

【質疑等】

(玉城知事)

ただいま説明がありました「新たな子どもの貧困対策(素案)について」協議及び意見交換を行っていただきたいと思っております。ご意見ご質問等ある方は挙手にてお願いい

たします。

(蔵根委員)

玉城知事は誰一人取り残さない社会ということで、私が1/27にコメンテーターをした中で玉城知事からご挨拶を頂き、自分は小さいときは里親に、そして一年生からはお母さんに育てられ、缶詰を開けるなど自分でやっていた。さらに今、奥様はお料理上手だけれども自分で料理を楽しんでいらっしゃるということで、素晴らしいなと皆とお話しました。

というのは、今回の策定の中でまず一つ。現場に実際に行ってお話をするというところに感激を受けました。新たな子どもの貧困対策の計画という中で、学校をプラットフォームとして位置付けるのはとても大事なことで、私は小学校の校長をしていて、最後の学校は貧困校でした。心の貧困を無くす。つまり子どもたちに、あなたは大事な存在よということを知らせる、メッセージを与えることが大事。自己肯定感を育てるというのはまさしく必要なのですね。私たちは心の贅沢を与えることができるよねということで、日々教育実践を仲間たちとしてきました。そして最後の貧困校の中で、コミュニティ・スクールや地域支援本部事業の地域の人たちの手助け、声掛け、それからソーシャルワーカーや学校カウンセラーにも十分に助けられました。

そして、二個提言がありますが、ひとつ、私は基地内のアメリカンスクールにコロナ前よくボランティアで行きました。アメリカンスクールではサポーターや学校心理カウンセラーというのは常駐です。日本の、沖縄の我々の傍には週に一遍です。というところの更なる拡充をお願いしたいと、現場にいる管理者として痛切に思いました。

もうひとつは、最近聞くさらに質の高い教育、例えば公認心理士国家試験とかありますので、そういう方々を子どものそばに寄り添う、とくに貧困の子どもたちの心を開かせるというのは、そういう人たちの専門性です。さらに、そういう人たちの生活の保証というのを、安くてやっていられないわということもありますので、そういうところも県の方でやって欲しいなというふうに思います。

そして、沖縄県の学力の向上が著しく上がっています。現場で見ている先生方の授業改善が素晴らしいです。それは沖縄県のキャリア教育、これも謳われています。つまり自立する子ども、自分で律する子ども、色んな手当をもらってではなく自分で自立する子どもを育てることが大事。私たちは教育課程の中で、思考力、算数国語理化社会の義務教育の中で勉強勉強というけれども、実はその裏で思考力とか理解力、判断力、想像力などを育てています。そういう意味の学力向上をうんと讃えて頂きたいし、学力じゃなくてそういうものを通して人間力を私たちは日々教育の過程の中で育てているということ。

そして、キャリアの新しい教育が2020年からスタートだったのですけれども（コロ

ナが邪魔しておりますけれども) キャリアパスポートということで子どもたちが夢を語ってどんどん受け継いで始まっています。

それで最後に提言ですけれども、やっぱりリーダーである校長先生、学級担任は、あなたを私が大事にするわという気持ちで全先生がやっていると思います。この間教育センターの発表会があったのですけれども、金城教育長が直々に見に行って、こういうふうな研究しているのだねと感動しておりました。そういうものをうんと共有して、私達は頑張っていますというところをもっともっと言う必要があるなと思います。

ひとつ提言ですけれども、最近の課題にソサエティ 5.0 というのがあります。コロナが発生してからオンライン授業を私たちは進めています。その中でやはり現場から聞こえてくるのは、お家で Wi-Fi がないところはどうするのかと、そこにまた教育の格差が出てくるのじゃないかというところで、センター長から玉城知事へ、民間業者が協力して整備している Be. OKINAWA FreeWi-Fi を貧困の家庭に活用できないかと。今、学校教育は変わっています。みんなタブレットに入れてやっています。ですからそういうものが貧困の家庭とか、そういうところに活用できないかなということを、私の方で代わって提議したいと思います。併せて沖縄県には IT センターという、全国で唯一研究しているところがあります。これからのソサエティ 5.0 の世界というのは、一番これが大事になってきます。そしてさっき言いました人間性、クリエイティブな想像力、それはまた私たちのキャリア教育という視点で大事にしていけたらなと思います。

知事の助成力や、誰一人取り残さないというのを肌で感じるので、非常に関係しています。

以上です。

(玉城知事)

ありがとうございました。先ほどのご挨拶でも申し上げましたけれども、やはり子どもたちが生まれ育った環境によって人生が左右されることのない、夢や希望をもって成長していける誰一人取り残さない沖縄の教育環境、社会環境を整備するために引き続き取り組んでいきたいと思います。ありがとうございます。

(藏根委員)

ありがとうございます。

(玉城知事)

他にご質問、ご意見ございますでしょうか。山里委員どうぞ。

(山里委員)

意見でございますけれども、今藏根委員からもありましたように学校は保護者の次に生徒と距離が近いということで、プラットフォームとして色んな生徒との関わり、それからそれを支援に繋げていくということで、とても重要なところだと私も思っております。

そのためには教師が個々の児童生徒の中で、支援が必要な子どもかどうか気づく力をどういう風に育成していくかということも大事だと思っております、気づいた後には福祉関係、医療等々、関係機関との連携を迅速に進められる。そういった力量がやっぱり必要なと思っております。

教育委員会の方では研修等を通して、所謂実働部隊というところの教師の育成について今しっかり頑張っているところでございます。

また、令和4年度からは教育委員会の方でも新たな沖縄研究振興計画がスタートしますけれども、引き続き子どもの貧困対策、推進についても割り込んで、しっかり私たち教育委員もそれを推進していくということに貢献していかなければと思っております。

あと、教育の根本というのは、(藏根委員も仰っておいりましたように) 誰一人取り残さない(社会)。子どもの人権というか、人間として同じように尊重されなければならないと思いますので、経済的な環境を含め協力格差があってはいけないというのを基本に、その中で子どもたちに生きる力というのをしっかり身に着けてもらうということを基本に、我々は頑張っているところでありますし、そのためにまず子供達が自分の現状をしっかり理解する、把握するというところから始めないとなかなか自分の将来像について開けないのではないかと。

それから更に自分の将来像を描いた後に、その為にしっかり努力する、努力する力を身に着けさせる、ということを中心に色々な施策をやっております。

もちろんセイフティネットとして支援が必要な子どもたちに対しては、校内自立支援システムとか新たな政策も取り入れましたけれども、セイフティネットとしてしっかり頑張りがちながら、この子達自身にも自分の環境を自ら変えていく力というのをぜひ身に着けてほしいということで、頑張っているということをご理解いただければと思っております。

よろしく申し上げます。

(玉城知事)

ありがとうございました。やはり子どもたちが自己肯定感をしっかりと持って、自分の将来の姿に近づいていくための教育の在り方について私の方でもしっかり研究していきたいと思っております。ありがとうございます。

他にご意見ご質問ございますでしょうか。小濱委員どうぞ。選挙

(小濱委員)

私、小児科医としての立場から少しご意見述べさせていただきます。約30年以上新生児の医療に従事しておりました。その中で、10代で出産した若い母親の育ての支援のことに関わっておりました。大体150人くらい継続してみていたかと思うのですが、実は出産した時点で入籍していた母親というのが50%くらいしかおりませんでした。ほとんどが中々入籍に至りませんし、入籍に至っても離婚してしまう。結果としてひとり親家庭、シングルマザーとなっているものもたくさん経験してきました。

その母親を支えてくださる祖父母を調べていきますと、実はその祖父母もかなりの割合でシングルマザー、シングルファザーというひとり親家庭であるというのが分かりました。そうしますと若い若年の母親というのは、頼りとする祖父母も当てにならないということで結局は学業も続けられず、非常に困窮した状態で祖父母と同じような形で負のスパイラルと言いますか、貧困のスパイラルに陥っていくというのをいくつも経験しております。

その中で(継続して何年か見たりしておりましたけれども)やはり虐待に至るケース、ネグレクトに至るケースも経験し児相と相談したことも多々ありました。今回、貧困計画の中で若年妊産婦への支援がきちんと取り上げられているのがとても嬉しく思います。色々考えていたのですけれども、10代で出産して入籍に至らないような母親、シングルマザーを貧困のスパイラルに陥らせない方策というのがきちんと出来るということが、長期に渡りますけれども結果として子どもの貧困対策に繋がるという風に考えております。

当然、経済的な支援は必要だと思っております。ですけれどもその若い母親がきちんとした教育を継続出来てそして就職につながるような学力を獲得していくこと。これが実は若い母親を救い、そこから育っていく子どもたちがきちんとした教育を受けることに繋がると考えております。

今回のこの妊産婦の支援というなかで、10年という計画ですけれども、もっともっと長い目で見て沖縄の子どもたち、シングルマザー、若い母親から生まれた子どもたち含めてしっかりサポートする体制ができると、沖縄の子どもたちは幸せになれるのではないかと考えております。

ぜひよろしく申し上げます。

(玉城知事)

ありがとうございます。名渡山部長からその点について申し上げます。

(名渡山部長)

ご意見ありがとうございます。やはり若年出産の支援につきましては、まずは早い時期から支援につながるということの方が重要だと考えております。母子手帳の交付から妊娠出産、子育てに至るまで切れ目なく支援を行っていくという意味で、今現在市町村に母子健康包括支援センターの設置を促進することに取り組んでいるところで

す。

また、お若いと養育力に不安もございますので、養育の悩みの相談に乗ったり、あるいは親となった子供といますか、親の就労の支援、資格取得の支援であったり、あるいは復学の情報提供だったり、そういったような総合的な支援に取り組むための若年母子の居場所にも取り組んでいるところです。

次年度はまた新たに居場所等に保健師さんを派遣いたしまして、子どもの性の悩みや性教育にも取り組みながら、またあわせて（こちらは教育委員会のほうと連携していくと思うのですが）キャリア教育ということで、将来どういう職業につきたいかというような話をする中で、自分のためには何を学んでどういう風にいつ出産して結婚して、というような人生設計を含めた広い意味でのキャリア支援にも取り込んでいくことが出来るのかなと考えておまして、引き続き若年の妊産婦やひとり親の支援には取り組んで参りたいと考えております。

（玉城知事）

ありがとうございます。上原委員なにかございますか。

（上原委員）

先ほど知事のお話にもありましたように、基本理念にもありました「社会の一番の宝である」という理念をお持ちになって「誰一人取り残さない優しい社会」を実現していくという素晴らしい理念のもとに素案を読ませていただきましたけれども、具体的な取り組みまで対策を取組んだことが見えてきて大変すばらしいと、関係方々のご苦勞に敬意を表したいと思えます。

そういった中で三点ほどお願いがございまして、まず一点目ですが、こういった相談はこの機関はどうですか、こういう支援の方法がありますよと明示されておりますけれども、対象者と思われる方々が十分にそういった仕組みや機関をご存じなのかと（懸念）。所謂子どもの貧困に関する対象になっている方々が、そういった仕組みや機関を理解しているのか、十分に活用する状況にあるのかなとちょっと気になりました。周知の仕方、理解の仕方、情報機器などを活用しながら企業とか雇用者の方々にも届くような周知の仕方を今一度工夫されたら、よりこの素案を基にした新しい対策計画がいくてくるのかなと感じました。

二点目は、幼児教育の充実であります。学校教育の場合は小学校から始まっていくようなニュアンスがありますけれども、幼児期の教育からスタートされているという



ことを私は素晴らしく評価したいと思います。みなさんご承知だと思いますけれども1997年でしたか、イギリスのブレア首相が政府のやることは三つあると。「第一に教育、第二に教育、第三に教育である」という風に仰っていますけれども、そのなかで貧困をなくすには幼児期の教育から支援して、あるいは形作っていくことが重要だと。そういった観点から、子どもといってもちよろちよろと（教育が）始まるのではなく、幼児期から視点を当てて取り組んでいくというのが素晴らしいことではないかと思っております。今後もやはり保育教育の環境改善、親の支援もそこから始めていくと非常に良いのではないかと思います。昨今の虐待関係、事件等々報道されておりますけれども、その辺が大事にされていくと改善されていくのかなと思います。

三点目は、具体的な予算もあって施策が進んでいくんですけども、それをやっているのは人だと思います。先端で活躍するスクールカウンセラーとかソーシャルワーカーですとか、専門の方々がたくさんいらっしゃると思います。福祉関係でも医療関係でもいらっしゃると思いますが、そういった人材が（場合によってはコロナの影響があるかもしれませんが、）足りないんじゃないかという指摘もありますよね。そういった専門職といいますか、関われる方々の育成等々ももっとやっていると、この問題もいい方向にいくのかなという風に感じます。例えば学校でしたらソーシャルワーカーを一校にひとり付けていくとか、大きな学校であれば複数制にするとか。ソーシャルワーカーと市町村の福祉部局が連携して進めていくとか。様々なことが新たな展開として出てくるのかなと思っております。

素晴らしい素案ができておりますので、そこを具体的に、先端で取り組む方々がこの理念を思い出しながらやっていけるような状況を踏まえると、さらに本件の貧困対策は進んでいくのかなという感じを受けました。

以上でございます。ありがとうございました。

（玉城知事）

ありがとうございました。この件について、お願いします。

（名渡山部長）

ご意見ありがとうございます。まず、支援が対象者に届いているのかというご指摘でございました。色々な実態調査等を行ううえで、やはり本当に支援が必要な人は情報に対しても弱者であると。そういった方々に本当に支援が届いているのかというのは今一度確認すべき点であるというご意見は多々頂戴しております。そのような中で例えば子どもに対してはSNSが使いやすいということでSNSを通した相談を行ったり、（これは次年度からですけども）ヤングケアラーと寄り添い支援事業を基金を使って計画をしておりますが、これは従来からの相談もなく支援から、広報をしていく支援にということで、例えば学校や居場所等で気になるご家庭の情報を得ました

らそこに支援員が出向いて行って、状況を確認しながらどういった支援が必要かというのを相談していく、というような事業を計画しているところです。

引き続き、支援が必要な家庭に支援を届けていくという取り組みを強化してまいりたいと考えております。

また、幼児教育の充実についてご意見頂戴いたしました。幼児期の教育は非認知能力の育成であったり、非常にその後の人格形成の基礎を培う重要な部分でございますので、幼児教育の無償化が出されたところもありまして、多くの希望する方々に質の高い教育を届けていくという意味で、幼児教育センターもつくっていただきました。保育所や認定こども園、あるいは認可外保育施設、幼稚園、幼児教育を行う様々な施設で、どこの施設にいても質の高い幼児教育が受けられるような体制を引き続き連携をさせて頂きながら、取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、スクールソーシャルワーカーについては人材育成をというお話がございましたけれども、私どもの部局で言うと子供の貧困対策支援員等を配置しておりますけれども、その方々が活動していく中で悩みを共有しながら孤立をさせない取り組みですとか、活動しやすい環境づくりを作っていくことも大事なのかなと思っております。研修やそういった環境作りに取り組みながら教育委員会とも連携を立てて頂きながら人材の確保と育成に取り組んでまいりたいと考えております。

(玉城知事)

それでは時間の関係もありますから、最後に比嘉委員からもどうぞ一言お願いします。

(比嘉委員)

では私からひとつ、私は保護者の立場であると同時に保育と福祉の施設を運営しておりますので、本当に身近に子どもが抱える様々な問題を見ております。若年妊婦であったりヤングケアラーであったり、ネグレクトであったり不登校であったり。その中で沖縄県の抱える子供の問題、課題に対して県のほうではスピーディーに解決するために今後、(どのようなことをするという)方策などの考えがあれば教えて頂きたいなと思っております。

(名渡山部長)

申し訳ございません、もう一度お願いします。

(比嘉委員)

沖縄県として子どもの抱える課題や問題に対してスピーディーに解決するため、どのような取り組みをしたらいいかと考えていらっしゃるのか教えて頂きたいと思いま

す。

(名渡山部長)

子どもが抱える課題は非常に複雑化しています。そして多様な課題を抱えている事例が多くなっていると考えております。これにつきましては、福祉や教育だけでなく医療であったり、あるいはその他の多様な方々の知見を頂きながら協力して関わっていくことが大事だと考えておりますので、幅広い支援体制を構築しながら一人ひとりの事情に寄り添った、どのような支援が必要かということを専門員も含めて取り組んでいくことが重要だと考えております。

そのための体制作りをまずは急ぎながら、個々の課題に向き合って参りたいと考えております。

(玉城知事)

ありがとうございました。それぞれの委員からのご要望、ご意見につきましてはこの素案の中にしっかりと入れ込んでいけるよう十分検討を重ねてまいりたいと思います。

引き続きどうぞご指導くださいますようよろしくお願いいたします。

#### (4) 報告事項

##### ヤングケアラーに関するアンケート結果について

説明：青少年・子ども家庭課

(玉城知事)

報告は以上であります。ありがとうございました。

さて、本日の「新たな子どもの貧困対策計画（素案）」及び「ヤングケアラーに関するアンケート結果」について、今日は貴重な時間とご意見を賜りありがとうございました。子どもの貧困対策計画には、教育庁の施策でも数多く含まれております。やはりここは教育と福祉が連携して取り組むこと、更には医療など他の分野に関しても連携をしっかりと繋いでいくということが大切だというふうに考えております。

基本理念にも書いておりますが、社会の一番の宝である子どもたちが夢や希望をもって成長していけること、自己肯定感を養いながら在るべき自分の将来の姿に一步でも近づいていけること、そして「誰一人取り残さない優しい社会」の実現を目指して取り組みを進めてまいりますので、教育委員の皆様には引き続きご指導ご協力をお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

いっぺー にふえー でーびたん。

(司会)

以上を持ちまして沖縄県総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。